

令和八年度

滝川第二中学校 入学考査 問題

A1日程

国語

(五十分・百五十点)

注意事項

- 1 問題は1ページから15ページまであります。
- 2 解答は、すべて解答用紙の枠内わくないに記入しなさい。
- 3 「開始」の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 4 受験番号と氏名を、解答用紙と問題冊子の表紙に正しく記入しなさい。
- 5 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督かんとくの先生の指示に従いなさい。

受験番号	氏名
—	

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号ふごうもそれぞれ一字としてふくみます。また、書きぬく部分にふりがながある場合、これを省略してもかまいません。)

スーパーやコンビニで飲み物を選ぶ時、「どれにしようか」と立ち止まった経験はないだろうか。最終的に「まあこれでいいか」と妥協たきょうしたことも、一度や二度ではないかもしれない。

これは飲料に限った話ではない。菓子かし、カップ麺めん、コスメ、家電製品……私たちの生活のあらゆる場面で、年々①選択肢せんたくしは増えている。

しかし、これらの膨大ぼうだいな選択肢は、必ずしも生活者のために用意されたわけではない。

まずはコンビニを題材に、選択肢が増え続けるメカニズムについて考えてみよう。

② 言わずもがな、コンビニは選択肢の宝庫だ。

何を買うにしても複数の選択肢がある。しかしその選択肢の中

には、③差別性が低い商品かくも含まれている。本書冒頭ぼうとうの若者が言う「どれもある程度おいしいから、どれでもいい」というカテゴリだ。

この状況じょうきょうは、マーケティング用語でコモディティ化と呼ぶ。「共通の」や「一般的な」いっぽんてき、「ありふれた」を意味する common から派生した言葉で、製品やサービスが差別化できなくなっている状況のことを指す。

今、コンビニのお茶はまさにコモディティ化している。言いかえれば、日本のお茶メーカーたちは、一般人が求める味のレベルをととの昔にクリアしてしまったということだ。コンビニのお茶に「もっとおいしくなってほしい」と切実に願っている一般生活者がどれだけいるだろうか。その大半は既に不満すでを持っていないはずだ。

生活者側には不満がないのに、企業側きぎょうだけが「もっとおいしくしなきゃ」と、膨大な開発コストをかけて商品を改良する努力を続けている。その結果生まれるのが「**成分*倍(当社比)」という謎なぞの宣伝文句だ。

その「*成分」とはどんな効果があるのか？ 「*倍（当社比）」はどれほどすごいのか？ 私たちは④まるで社内用語のような、よくわからない情報を判断基準として渡されるが、正直よくわからないので「どれでもいいや」で決断している。

（A）これはお茶だけに限ったことではない。

企業側だけが細かな改良に注力し、生活者は大してちがを感じていないズレはあらゆるジャンルで発生している。

ではなぜ私たちは満足しているはずの商品の「新しいバリエーション」に次々と出会うのだろうか？

※電通に勤めていた頃の話だ。とある大手製菓メーカーから「重要な新商品の相談がある」と呼ばれて、話を聞きに行った。すると内容は新しい味にリニューアルしたガムの宣伝に関する相談だった。新しい味に関する膨大な※マーケティング資料を見せられたが、内心「味のリニューアル、本当に誰かが求めているか？」と思わずにはいられなかった。

（B）、その新商品は発売後に少しだけ売れて、しばらく

するとコンビニの棚から消えた。結局残ったのは、定番の味のガムだけだった。

その後、新興企業のガムが異なるアプローチで大ヒットした。形状を変えたのだ。これまでガムといえば細長い長方形が定番だったが、平たいタブレット状にして「ポケットに入りやすい」と、これまでのガムの不満を解消するメリットを※訴求した。

（C）、生活者が本当に欲しかったのは「新しい味」ではなく「新しい形」だった。

多くの企業がこうした生活者の本当のニーズに気づけない。正確に言うと、気づく暇がない。

なぜなら新商品をどんどん※リリースしないといけないからだ。期間内にできる範囲での「新しくなった感じ」だけを⑤落とし所に、商品を改良して、新商品としてリリースする。こうして生活者が求めているにもかかわらず、また新しい選択肢が世の中に増えていくのだ。

しかし、実は企業も、そんな短期サイクルで新発売を繰り返したいと思っていない。何らかの製品開発に携わる人は、こう思うかもしれない。「私たちがだって本当は、もっとじっくり生活者のニーズに向き合いたい。でも現実には新商品の発売スケジュールに追われている」と。

⑥ この問題の根は、個々の開発者の意思や能力ではなく、もっと構造的なところにある。

⑦ 前述の通り、コンビニで買い物をする時、私たちには複数の選択肢がある。

たとえば、それが差別性の低いお茶や水でも、最低でも3社以上の中から1社を選ばされる。正直どれでもいいのに、どれもおいしいのに、なぜそんなに私たちに選択を迫るのか。それは、コンビニの限られた棚を奪い合う企業同士の熾烈な競争が原因だ。

メーカーにとってコンビニは命綱だ。国内トップのコンビニチェーンであれば全国に2万店舗以上ある。つまりコンビニの※バイヤーに「選ばれた」商品は、全国2万店舗以上に並ぶことにな

る。コンビニの棚に置かれるか、置かれないかでメーカーの売上は激変する。大差ない（どれでもいい）カテゴリのアイテムであれば、一度棚に設置されれば、3分の1の確率で選んでもらえるといっても過言ではない。

⑧ コンビニの普及は、私たちの生活を変えただけでなく、メーカーと小売業の力関係すらも一変させた。

今、メーカーの最優先事項は、売場の棚を獲得すること。

逆に言えば、棚から外されること（これを棚落ちと言う）があつてはならない。この熾烈な棚争いに必要なのが、頻繁な「新商品」や「リニューアル」なのだ。

⑨ 各企業は棚から他社の商品をどかすために新商品を出す。新たな生活者ニーズを捉えた画期的な商品として、コンビニのバイヤーにアピールする。

コンビニの棚の入れ替わりは激しい。生活者がほぼ毎日訪れる存在になったコンビニは、小売りとしての競争力を維持するために「商品の鮮度」を求めている。そのため棚に置かれ続けるには、定期的に「変わった感（鮮度）」をアピールしないといけな

いのだ。

(D) 企業は商品のリニューアルに追われる。「ぶっちゃけ、前のお茶とあまり変わりません」なんて口が裂けても言えない。「正直、生活者は今のお茶で満足しています」なんてもつと
言えない。しかし、生活者は今の商品で十分なのだ。

この現象はコンビニだけに限らない。

スーパーマーケット、百貨店、ドラッグストア、(E) E
Cサイトに至るまで、あらゆる小売りの場で同様の競争が繰り広
げられている。限られた売場を獲得するために、あるいは一度獲
得した売場を維持するために、「新しさ」や「変わった
感」をアピールし続けなければならない。

メーカーは生活者が求めているものを作りたいわけではない。生活者も無駄な選択に時間を使いたくないわけではない。小売業も混乱を招きたいわけではない。

しかし、限られた売場をめぐる競争が、すべての関係者を「選
択肢の増加」へと駆り立てているのだ。

(小島雄一郎)『「選べない」はなぜ起こる?』より。

注 電通：広告に関する業務を主におこなう会社のひとつ。

マーケティング資料

：自社の製品やサービスを宣伝するために作成する資料。

訴求：強く訴えること。

リリース：公表。

バイヤー：仕入れる商品を選択する人。

問一 (A) (E) に入ることばとして適当なものを、

次のア～オから選び、記号で答えなさい。(同じものは二度
選べません。)

ア 案の定 イ さらに ウ こうして
エ つまり オ もちろん

問二 ——線部①「選択肢は増えている」とありますが、その理

由について説明した次の文の【 】に入ることばを、
【ア】は三字、【イ】は二字で、本文中から書きぬき
なさい。

次々と【ア】が【イ】されているから。

問三 —— 線部②「言わずもがな」を七字の別のことばで言いかえなさい。

問四 —— 線部③「差別性が低い」と同じ内容を表す四字の表現を、本文中から書きぬきなさい。

問五 —— 線部④「まるで社内用語のような」とありますが、このような言葉が消費者向けの広告に用いられる理由を説明した次の文の【 】に入ることばを、本文中からそれぞれ三字で書きぬきなさい。

新商品開発が、【ア】ではなく、【イ】の必要によつておこなわれているから。

問六 —— 線部⑤「落とし所」とありますが、ここでの意味を説明する次の文の【 】に入ることばを、本文中から書きぬきなさい。

やむをえず【 】した結果

問七 —— 線部⑥「この問題」がさす内容の説明として最も適当なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 開発者たちが次々に開発をさせられる状況に不満を持っている、本当に良い商品を作る意欲をなくしていること。

イ 消費者たちは、自らのニーズを自覚しておらず、新しい製品を開発する人々が方向性を見いだせていないこと。

ウ 消費者たちが、あらゆる製品に不満を感じておらず、もはや新しい商品を開発する意味がなくなっていること。

エ 開発者たちが次々に新製品を開発しているものの、それらの改良点が、消費者のニーズに合うものでないこと。

オ 開発者たちが、コンビニの利益の拡大を最優先して、自社の利益や消費者のニーズを重視しなくなったこと。

問八 ——線部⑦「構造的なところ」とありますが、メーカーが

かかえる構造的な問題についての説明として、誤っているものを、次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア コンビニの棚に自社製品を置いてもらうためには、絶えず新商品やリニューアルした商品を発売しつづけなければならぬということ。

イ コンビニ各社は、状態の良い新鮮な製品を販売するために、まだ使用できる商品を廃棄したりメーカーに返品したりすること。

ウ コンビニ各社は、競争力を保つために、目新しい商品を店に置くことが大切であると考えており、これにこたえる必要があること。

エ コンビニの棚に置かれる新製品は、以前からの物と大きな違いはなくても、今までの物とは変わったという感じを出す必要があること。

オ コンビニ業界は、常に消費者のニーズを見つけ出し、メーカーに対して無理なスピードで開発の要求をしているということ。

問九 ——線部⑧「力関係すらも一変させた」とありますが、コ

ンビニの普及が、なぜこうした結果をうんだのですか。「メーカー」「影響」ということばを使って、四十字以内で説明しなさい。

問十 ——線部⑨「どかす」とありますが、なぜその必要があるのですか。この箇所よりも後の本文中から、十五字以内で書きぬきなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。また、書きぬく部分にふりがながある場合、これを省略してもかまいません。)

主人公の今日子は、長年タクシードライバーの仕事をしてきた。珍しく数日間休みを取り、今ではただ一人の家族である妹と空港で待ち合わせて食事をするようになったが、妹は急用で遅刻すると連絡してきた。今日子は妹と自分のいなり寿司を買い、屋上で暇つぶしをすることにした。

あの日はそして、不思議なことに、展望デッキに上がってみたら、他にひとがいなかったのだ。① まるで魔法でかき消したように、あの夕方の空港の屋上には、今日子以外のひとがいなかった。空の旅がいまほど普通でなかった時代、屋上にはいつも飛行機を見ているひとたちがたくさんいたのに。

子どもの頃の今日子は、きよろきよろと辺りを見回し、風が吹き過ぎるだけの、しんとした空港の屋上で、ひとりぽつんと立ち尽くした。

誰もいない広々とした場所というものが、こんなに殺風景で寂しいものなのだと初めて知った。

あれは秋だった。今日子は秋風が吹きすぎる、肌寒い空港の展望デッキで、冷えたいなり寿司を食べ、冷たいジュースを飲んだ。いなり寿司もジュースもいつも通りにそれなりに美味しかったけれど、風の音を聞いているうちに、寂しくなってきた。今日子は空港の屋上で泣いた。静かに涙を流してすすり泣いた。

(ずうっと、泣くのを我慢していたんだ)

今日子が悲しいと泣けば、母が心配する。優しい祖母も困ってしまうだろうし、妹の明日香は狼狽えるだろう。

今日子は、みんなのためにしゃんとして、いつも笑顔で元気だったかったのだ。

(でもほんとうは、寂しくて泣きたかったんだよなあ。いつだった)

③ けれど、ぐっと涙を呑み込んで、

(頑張っているお母さんにも、優しいおばあちゃんにも、可愛い妹にも、そして、お空にいるお父さんにも、わたしにしてあげられることは、なんにもなかったからね)

あれはたしか、最後にお母さんの飛行機のお見送りをしに屋上に上がったときのこと。あの頃お母さんの仕事が忙しくなり、今日子と明日香も大きくなって、自然とお母さんはひとりで忙ただしく空港に向かい帰るようになって、お見送りの習慣も消えてしまったのだ。

エレベーターは屋上に着いた。途中まで、乗り降りするひとはいたのだけれど、屋上で降りたのは、今日子ひとりだけだった。そして、梅雨時の夕方の、静かな風が吹き渡る屋上の展望デッキへと足を踏み出したのも、今日子だけ。空の下に歩き出して気がつくとき、広々とした展望デッキにいるのは、今日子ただひとりなのだった。

夕焼けの赤色に染まる空が、果てしなく広がっているその空間に——昔見たのと同じ、飛行機がエンジン音をたてて離陸と着陸を繰り返す様子が続くその場所にいるのは、彼女だけだった。

「——子どものときの、^④あのときみたいだな」

あの秋の夕暮れ、黄昏時の情景のようだった。

^⑤違うのは、あのときの今日子は子どもだったこと。

あのときみたいに、いなり寿司を二人前持って、おとなになっ

た今日子は、^⑥ふと苦笑する。

「寂しい、泣きたい気持ちなのも、同じかもね。涙をこらえているのも、おんなじだ」

今日子はとても悲しい。悲しくて、怖い。

成功の確率の低い手術を受ける予定があるからだ。

少し前、スマートウォッチが、今日子にはよくわからないメッセージを画面に表示した。これは何ですか、と携帯電話のお店に、教えてもらいに行ったら、

「心臓がちよっとおかしかったよ、と時計が教えてくれてるんです。早めに病院に行かれた方がいいですよ」

と、教えてくれた。

半信半疑だったし、何しろ今日子は機械ものには疎い。LINEのやりとりのついでに、明日香に、実はこんなことが、とメッセージを送ったら、速攻で電話がかかってきて、

『お姉ちゃん、すぐに病院に行って。^⑦頼むから』

という。

何でも、同じようにスマートウォッチに心臓の異常を感知したというメッセージが表示されて、病院で診てもらって助かったひとが、日本はおろか、世界中にいるのだとか。

心臓、と聞くと、その病気で亡くなった父のことを思いだして、どきりとした。けれど、

「まさかー」

今日子は笑い飛ばした。

自慢じゃないけれど、元氣と健康には自信があった。自分に限って、心臓がどうか、絶対にあり得ない。間違いだらうと思つた。

でも、明日香はどうしても病院に行けという。泣きそうな声で懇願されると、お姉ちゃんとしては、^⑧無下にできなかつた。

「わかつた。明日行くよ」

ちようど、その次の日に休みを取っていた。

そして、近所の評判のいい循環器科の病院に（そういうことにはタクシードライバーは詳しいものだ。何しろ、病院に行くお客様をたくさん乗せているのだから）出かけ、内診や様々な検査の末、精密な検査を受けるようにいわれた。そして、数日をかけての検査の後、心臓に思わぬ異常が見つかつた。

先生は、優しいまなざしで^⑨氣遣うようにいった。治らない病氣ではない。手術をすれば治る確率が高い。けれど、実のところ、難しい手術なので、必ず成功するとはいえません。

先生のまなざしは、まるでもう、今日子がこれから転げ落ちて行く、死への道のりが見えているようで、かわいそうに、という、そんな想いが透けて見えるものだった。

母や祖母が病んで身罷つたとき、もう助からないと告げた医師たちのそのまなざしと同じで、すでに違う世界に引っこすと知れたひとを見るような、遠いまなざしだった。

（じゃあ、わたしも死ぬんだな）

と、今日子は思つた。

（難しい手術なんだろうなあ）

そのとき、自分が笑みを浮かべていたのを覚えている。ありがとうございます、と、いつものように深く頭を下げ、ふらふらと診察室を出て、病院を出た。

手術の日取りその他、いろんなことを決めなくてはいけないうだったけれど、とても受け止めきれず、また来ます、と頭を下げ、六月の空の下に足を運んだのだった。

次の日は、勤務の日だったけれど、^⑩不安定で物思いにふけりがちな自分がお客様を乗せて車を運転するなんて、とてもできないと思つた。

電話で会社に相談したところ、絶句されたあと、しばらく休む

ようにいわれたのだった。有給休暇きゅうかを使って、ゆっくり休みなさい、と。

そして今日、妹が会いに来るのは、つまりはその診断の話と、手術についてのことを聞きに来てくれるのだった。明日香がいうには、手術をしたら、保証人も必要なのだそうで、それは彼女に頼むしかなかった。

黄昏時の空の下で、ひとり風に吹かれ、飛び立ち舞い降りる飛行機たちのエンジン音を聞きながら、今日子は少しだけ笑い、深いため息をつく。

「ああ、泣きたいなあ。泣けるなら、よかったなあ」

こんなとき、ひとは泣いていいのだろうと思う。どんなに泣いても許されることだろうと、思うのだ。

(村山早紀「風の港 再会の空」より。)

問一 —— 線部①「まるで魔法でかき消したように」とあります

が、こう感じた主人公の心情の説明として最も適当なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 飛行機を一人で見たかったので、屋上に誰もいないことが、親切な魔法使いの好意のように思えてうれしかった。

イ 秋風の肌寒さのせいで人々が空港の屋上に来ないことに気づき、人の力の及ばない自然の偉大いだいさに感動している。

ウ いつもと違って人の姿の見えない空港の屋上の光景がとても意外だったので、不思議に思い、とまどいを感じている。

エ 誰もいないはずのない空港の屋上に人がいないのを見て、何かしら恐ろしい存在を感じて逃げようと思った。

オ 人がたくさんいる空港の屋上を見慣れているので、今まで見たことのない光景に、思わず胸をときめかせている。

問二 次のア～オのうちで、——線部「すぎる」が、——線部②

「過ぎる」と同じ使い方であるものを選び、記号で答えなさい。

- ア どうやら今日は風が寒すぎるようだ。
- イ 気づかずに郵便局の前を通りすぎる。
- ウ 私はお金を使いすぎるがあります。
- エ 時がすぎるのを忘れて語り合いました。
- オ この家の家賃はあまりにも安すぎる。

問三 ——線部③「こらえていた」とありますが、その理由の説明として最も適当なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 他人の見ているところで泣けば、自分が今生きている状況じょうきょうにつらさを感じることが公おおやけになってしまい、はずかしいから。
- イ 母の努力や祖母の優しさにこたえられない自分のふがいなさに泣きたい気分だが、それがばれると家族関係が崩くずれるから。
- ウ 母や祖母の愛情を感じながらも、多くの家庭とは違う環境に寂しさを感じていることに対し、くやしさを感じているから。
- エ 母や祖母ががんばって自分や妹を育てているので、自分もしっかりして家族のために早く仕事がしたいと思っているから。
- オ 母や祖母、妹や亡き父などへの感謝や愛情の気持ちがあるので、涙を見せることで家族に心配をかけたくないから。

問四 —— 線部④ 「あのととき」がいつであったのかを具体的に記

している部分を、本文中から三十字以内で書きぬきなさい。

問五 —— 線部⑤ 「違うのは、あのとときの今日は子どもだった

こと」とありますが、主人公とその家族に関すること以外に、「あのととき」とこの場面の状況で明らかでないがありま
す。「あのととき」「今日」という語を使ってその違いを説明し
なさい。

問六 —— 線部⑥ 「ふと苦笑する」とありますが、このときの主

人公の心情の説明として最も適当なものを、次のア～オから
選び、記号で答えなさい。

ア 空港の風景を見て子ども時代を思い出し、なつかしく思
いつつも、自分がすっかり年老いたことに複雑な思いをい
だいている。

イ いつも本音を隠して生きてきた自分の不正直さを恥じな
がらも、別の生き方ができない自分に複雑な思いをいだい
ている。

ウ 長年の病気が悪化するなか、不安で押しつぶされそうな
のに、それさえも隠してしまう自分に複雑な思いをいだい
ている。

エ しっかりしないといけないと努力し、不安がある時で
も、気丈に振る舞おうとしてしまう自分に複雑な思いを
いだいている。

オ 誰にも心配をかけたくないのに、急に重病だとわかっ
て、不安な気持ちを隠せなくなった自分に複雑な思いをい
だいている。

問七 — 線部⑦「頼むから」とありますが、この言葉から、妹のどのような気持ちが変わりますか。「姉の」から始まる形で、十五字程度で説明しなさい。

問八 — 線部⑧「無下にできなかった」とありますが、その意味に最も近い表現を、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 安心させてやりたいと思った。
- イ 心配にならぬわけがなかった。
- ウ とてもうれしい気持ちだった。
- エ 聞き流すわけにいなかった。
- オ 感謝せずにはいられなかった。

問九 — 線部⑨「気遣うようにいった」とありますが、主人公は医師がどのような気持ちと意図をもってこうした話し方をしていると感じていますか。その説明として最も適当なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 医師は主人公の病気が重いことを知って衝撃しょうげきを受けているが、彼女を動揺どうごうさせないために、必死に感情をおさえている。

イ 医師はこの病気で死ぬ可能性がある主人公を気の毒に思いつながら、こうした患者かんじやに対する通常どおりの話しかたをしている。

ウ 医師は主人公が落胆らくたんしていることにあきれ、とりあえず落ち着いて話を聞かせるために、優しそうな態度で話しかけている。

エ 医師は万一手術に失敗しても責任を問われないように、わざとこの病気が重いことや手術の危険性を強調して話している。

オ 医師は主人公が、重い病気であるという現実を受け入れ、最後まで希望を失わず、前向きに治療ちりょうを受けられるようにしたいと思っている。

問十 —— 線部⑩「不安定で物思いに…とてもできないと思った」とありますが、この表現から、主人公のどのような考え方がわかりますか。これについて説明した次の文の「――」に入ることばを、それぞれ漢字二字で自分で考えて答えなさい。

仕事に対する「A」感が強く、客の「B」を大切に
する考え方。

三 —— 線部の四字熟語の誤った漢字を探し、正しい漢字一字を答えなさい。

《例》ことばが無くても意心伝心で伝わる。 答え「以」

- (1) 温故知心の教えに従い、本を読む。
- (2) 誠真誠意努力する所存です。
- (3) 日新月异の成長をみせる。
- (4) 皆が異句同音に賛成した。
- (5) この話は起承転決がよくまとまっている。

四 —— 線部の敬語は、一般的なルールからみて誤りがあります。《》内に指示された字数で、すべてひらがなで、正しい形に改めなさい。

- (1) 母がすぐにあなたのお宅にいらつしゃいます。《五字》
- (2) それでは、こちらがすぐに御社をおたずねになります。《九字》
- (3) お客様、明日当店にご来店いたしますか。《六字》
- (4) 私はお招きにあずかり、ディナーをめしあがりました。《七字》
- (5) 朝顔に水をあげましょう。《六字》

五 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書

きなさい。

- (1) まさに鬼おにに金棒かねぼうだ。
- (2) どういう訳わけで遅刻ちこくしたのか。
- (3) 養蚕業ようさんぎょうが衰退すいたいする。
- (4) 選挙後せんぎょごに組閣くわかくする。
- (5) 以前いぜんより彼かれの盟友めいゆうであった。
- (6) 銀行ぎんぎんの入り口いりぐちをケイビケイビする。
- (7) 事業じぎょうのリヨウイキリヨウイキを拡大かくだいする。
- (8) 文化イサンぶん化イサンを守る活動くわつどうをする。
- (9) ロウホウロウホウを聞いて安心あんしんする。
- (10) それはまさにゲキヤクゲキヤクだ。

